

関西電力大飯原発3、4号機の再稼働決定に抗議し、 即時撤回を求める決議

1 野田首相は、本日、西川一誠福井県知事の同意を受けて、枝野幸男経産相ら関係3閣僚との会合を開き、関西電力大飯原発3、4号機の再稼働を最終決定した。

しかし、上記決定及びそれに至る一連の過程は、福島原発事故を経てもなお原発の「安全神話」に固執し、過酷極まる原発事故から国民の生命、身体、生活の安全を守るという最も重要な責務をことさらに無視・放棄したものというほかなく、前代未聞の愚行である。

2 いまだ福島原発事故の原因は解明されておらず、原発の安全性は何一つ保証されていない。むしろ日本列島が地震活動期に入ったといわれる現在、以前にもまして原発の危険性が高まっており、大飯原発でも敷地直下に存在する破砕帯が活断層と連動する危険性が判明している。さらに地震や津波といった自然災害に加え、航空機事故、人的ミス、破壊工作など様々な危険要因も指摘されている。

それにもかかわらず、この間、政府は、大飯原発再稼働ありきの姿勢に終始し、肝心の安全性についてまともな検証を行わないばかりか、ベントフィルターの設置、免震施設や防潮堤の建設などの最低限の安全対策すらもことごとく先送りしてきた。

さらには、野田首相が根拠もなく「福島を襲ったような地震津波がおこっても、事故を防止できる」などと断言したように、福島原発事故で崩壊した「安全神話」によって再び原発の危険性を隠蔽しようとしてしまっている。

挙げ句、大飯原発で過酷事故が発生した場合に事故収束や被害回復をする意思も能力もないにもかかわらず、野田首相が「私の責任で判断する」などとして、関係3閣僚と共に、大多数の国民の反対を無視して強行したのが本日の決定であり、これは国民に対する背信的行為以外の何物でもない。

3 現在でも、福島原発事故によって、16万人以上の人々が過酷な避難生活を強いられている。また、極めて広範な地域が放射能で汚染され、無数の人々が放射線被曝による健康不安、家庭や地域コミュニティの崩壊などといった未曾有の被害に苦しんでいる。

こうした悲惨な原発被害が今なお続いているのに、それを無視してあえて危険な大飯原発再稼働を決定した政府の行為は二重に許されない。それとともに、利潤追求のために大飯原発再稼働に固執する関西電力、この間ひたすら再稼働へ圧力を強めてきた経団連など、地域住民の生命、身体、生活の安全を守るという職責に相反する政府方針に同意した立地自治体の首長や福井県原子力安全専門委員会、「一任」という形で職責を放棄した福井県議会議員など、本日の上記決定を容認した一連の関係者の責任も重大である。

大多数の国民が危険な大飯原発再稼働に反対し、本日の歴史的暴挙に対し怒りの声を挙げている。二度と悲惨な原発事故を繰り返さないためにも、政府に対し、国民の声を真摯に受け止め、即刻大飯原発3、4号機の再稼働決定を撤回することを強く求める。

2012年6月16日
自由法曹団 常任幹事会